

平成 28 年度第 1 回奈良市総合教育会議 会議録

開催日時	平成 28 年 11 月 24 日（水） 午前 9 時から午前 10 時まで	
開催場所	市役所中央棟第 2 研修室（6 階）	
協議題	少人数学級編制の効果検証及び今後について	
出席者	構成員	仲川市長、杉江教育委員長、金春教育委員、都築教育委員、畑中教育委員、中室教育長
	事務局	【総合政策部】山岡総合政策課課長補佐 【教育総務部】北谷部長、小橋次長、池本教職員課長 【学校教育部】梅田部長、東畑学校教育課長、坂本いじめ防止生徒指導課長、廣岡教育支援課長、八木教育相談課長 【教育委員会事務局】高塚教育政策課長、小林教育政策課課長補佐、荒子主任、牧野
開催形態	公開（傍聴人なし）	
担当課	教育委員会事務局 教育政策課	

議事の内容

少人数学級編制の効果検証及び今後について

仲川市長 *本日の議題としては、かねてから取組を進めている本市独自の少人数学級編制によって、どういった成果があるのかということについて協議を進めていきたい。それでは、事務局からの説明をお願いします。

（事務局から少人数学級編制、教員個別訪問研修、奈良市学力向上プロジェクトについて説明）

仲川市長 *「少人数学級編制」というと、「1 クラスの人数を〇〇人にする」や、「成果はどのように数字で確認できているのか」といった議論になりやすい側面があるが、最終的には子どもたちの学びの習熟度の向上がゴールであるので、手段と目的を整理しながら議論を進めていくことが重要である。

杉江教育委員長 *本日の資料だけでは、少人数学級編制の効果について、エビデンスを得られたとは言えないのではないか。感覚的検討で結論を出しているという印象を受けた。

*コミュニケーション力や、リーダーシップ、規範意識などは、ある程度の人数のまとまりの中でしか育まれないのではないか。

*人口の推計から、現在の学級編制を続けていけば、自然と少人数学級編制の状態になる。

*アクティブラーニングを授業へ取り入れるにあたり、教員にとっては少人数の方が効果があると主張するかもしれないが、むしろ教員への研修により指導力、授業能力を向上させる方がはるかに有効だ。

*教員の資質・能力を高めるために、思い切った方法を講じることも必要だろう。例えば、組織的かつ計画的に教員を国内外の大学院に留学させるプランなどがあってもよいのではないか。

*ここ 7 年間の本市での支援を要する児童生徒の推移や教育格差の是正の観点から、特別支援教育の拡充が必要である。

都築教育委員

*地域教育協議会のコーディネーターとして教育現場に入ることがあるが、子どもに寄り添い励ます人の存在が、子どもたちの成功体験をサポートし、やり遂げる力を育むことを実感している。子どもの人数だけでなく、サポートの方法も含めてきめ細やかな対応を考えていくべきである。

*少人数学級では、教室の空気が落ち着いている。穏やかな空気の中で学ぶことが、子どもたちが協力して学び合い成長していくことにつながっていくのではないかと感じる。

*学力の土台となる家庭学習や生活習慣の定着は、家庭環境の格差拡大の影響を受ける。それゆえに学校の果たす役割も大きいが、少人数学級編制が一定の効果をもたらしているのではないかと思う。

*子どもたちが、何を知っているかだけでなく、それを使ってより良い人生を送ることが大切である。そのためには、教員は教える技術だけではなく、人としての豊かさが求められる。つまり、広い視野や自己研鑽する余裕も大切である。(フィンランドの教員の教育観を引き合いに出しながら)

中室教育長

*少人数学級の効果検証は、確かに難しい側面もある。

*子どもたちを取り巻く環境は、3つの大きな要素(家庭・学校・クラスメート)から成るが、主に学校とクラスメートに焦点を当ててアプローチしていく。

*子どもと直接的に接するのは教員であり、この接し方が、学力にも大きく関わってくるのではないかと考える。教員がめざすべき目標をしっかりと理解したうえで子どもの前に立たないと、教育は成り立たないし、子どもたちの学力向上につながらない。

*平成26年に実施した教員の業務やモチベーションなどに関する教員アンケート結果を受け、教員のモチベーションを上げるとともに、資質・能力の向上を図るため、教員個別訪問研修を開始した。

*教員個別訪問研修では、個々の若手教員を対象にビデオでの振り返りやチェックシートを活用し、自分の授業の改善点を分かりやすく導き示してくれるという信頼感が、受講者の意欲向上につながっている。それが、やがて授業改革を行いたい、学びたいという気持ちにつながっていくのだろう。

*学校現場で約半数を占める若手教員が、10年後、中堅教員として奈良市の教育を引っ張る立場になる。今の間に、力をつけていくことが大切である。

*若手教員には、経験豊かな校長OB等を特任指導主事として派遣している。この特任指導主事の指導力や資質・能力も若手教員に大きな影響を与えていると感じる。

*最終的には、OJTとして校内で先輩から学んでいけるシステムに移行したい。

金春教育委員

*奈良市学力向上プロジェクトについては、まだ始まったばかりで先行き不透明な部分もあるが、今後どのように展開していくかを見守っていきたい。

*今は数値化や客観性を求められているので、このシステムの有効性は感じている。

*教員の多忙感・負担感の一因である長時間にわたる採点作業が解消され、信頼できるデータが得られる。また、子どもたちにとっては、テストの記憶が新しいう

ちに比較的短期間で結果を知ることができることは、テストの振り返りにとても効果的である。

*データに頼って育てるだけでは、それぞれ個性を持っている人間を育てるという観点からは相反する課題ではないかと思う。そのためには、やはり、教員の資質向上は欠かせない。ベテラン教員の感覚的部分も相乗効果として教育指導できるのが理想だろう。

*教員も、学習者として、客観的に自分の現状を見る力は必要である。その材料として、この学力向上プロジェクトは大切な取組であると感じる。

畑中教育委員

*保護者の立場からすると、少人数学級の要望は多い。先生方にしっかりと見てもらっているという安心感を得ることができるからである。また、アクティブラーニングという視点でも少人数学級は重要性を増している。

*保護者との連携が密になっているという成果がある一方で、多くのことを先生方に頼りすぎている実態もあり、どう関わり合っていくべきか考えていく必要がある。

*小学校の段階で勉強がわからないということが、中学校になると不登校の原因へとつながっていくことが多いと思う。これをふまえて、習熟度・発達段階に応じたきめ細やかな指導が大切である。

*塾など行く子が多い状況の中、子どもの学力差がどんどん広がっているのではないか。それを一斉授業ではなかなかカバーしきれないように思う。

*今後の教員には、アクティブラーニングや ICT を効果的に活用して指導できる能力が必要である。すでに取り組みされている教員研修が充実され、教員の指導力が向上すれば、必ずしも少人数学級にこだわらなくとも目的は達成できるようなと思う。

*家庭や学校、地域が、しっかりと役割分担することが子どもの学力向上にも大切なように感じる。

仲川市長

*学力向上ということと、教育環境や家庭への支援という、いろいろな要素の中で少人数学級が果たせる役割が一定あるかと思う。

*来年度以降、複数年でどういう教育環境を作っていくか、人材育成も含めて、データや事実関係を確認できるような仕掛けも組み込んだ形で、しっかりと事業を進めていただきたい。